



## 第17回ボウリング大会

7月1日(土) 体育部・スポーツクラブ21宿南との共催で開催しました。1年ぶりの開催でしたが36人の参加があり、多世代交流で楽しい時間を過ごすことができました。次回は、来年2月24日(土)を計画しております。募集時には多くの皆様の参加をお待ちしています。

上位入賞者の方々です。(2ゲームトータル)

おめでとうございます。



優勝	維田 浩之さん	360点
準優勝	西村 勲さん	325点
3位	田中 健一さん	322点



## 宿南地区水害対策促進期成同盟会 総会開催

6月26日(月) 令和5年度総会が書面開催されました。総委員27名 出席委員24名でした。第1号議案～第6号議案まで賛成24名、反対0名で、すべて可決、承認されました。令和5年度の役員を報告させていただきます。

役職名	氏名	備考
会長(理事)	西田 教之	門前区長
副会長(理事)	太田垣 均	奥三谷区長
副会長(理事)	木下 計介	町 区長
会計(理事)	片山 博文	川東区長
理事	内海 博	寄宮区長
理事	藤盛 頼幸	川西区長
理事	多田 勝俊	青山区長
理事	維田 浩之	口三谷区長
監事	池田 哲彦	
監事	渡邊 雅之	

### 喫茶ひまわりからのご案内

いつもご利用ありがとうございます。

この季節、アイスコーヒーは、いかがでしょうか？

とてもおいしいですよ～♪♪♪

農作業の合い間などに是非お越し下さい。

8月14日(月) 17日(木)は、

お盆休みとなりますので、

次の週にお楽しみデーを考えています。

ご来店、お待ちしております。



### 奉仕作業実施



6月18日(日) ふれあい隊・花木の会総勢40名で、ふれあい倶楽部敷地内の草刈り、剪定、花植え作業を実施していただき、見違えるほど綺麗になりました。花壇は夏の花に変わりました。会員の皆さま有難うございました。



## 身近で見られる植物 ②6

### ハナイカダ〈ハナイカダ科〉

森の中や少し湿った沢筋に生える 2m前後の低木です。春の若葉は山菜として食べることができます。葉の上に花が咲き、実が着きます。その姿が、人（花）が筏に乗っている姿を表わすことから「花筏」と名付けられたようです。最近では、宿南地区内でもシカの食害に遭い、なかなか見ることができなくなった、珍しい貴重な樹木となっています。



## 操法大会出場

6月18日（日）火災発生時にポンプ・ホース等の操作を早く正確に実行できるかを競う操法大会が行われました。選手及び団員は週1回夜、大会に向け頑張ってお練習し、当日に臨みましたが、結果は上位3チーム以内に入れませんでした。選手は本当によく頑張ってくれたと思います。また、陰で支えてくれた団員にも感謝しています。この操法訓練を基礎とし、団員一丸となって活動に邁進してまいりますので、今後とも、ご支援ご協力の程宜しくお願いいたします。



八鹿第9分団 分団長 桑原一憲

お知らせ

7月21日（金）～8月24日（木）夏休みラジオ体操（各地区指定場所）

7月21日（金）8月18日（金）夏休みこども青谿書院塾（青谿書院本館於）

8月 2日（水）第2回体育部会

8月14日（月）盆踊り大会（別紙チラシをご覧ください）



## 草庵先生紹介

日記 53



京都の松尾山の山中で炊事や雑用を引き受けて働く盛之助

宮崎和夫さん作

池田盛之助は池田草庵の兄の息子、つまり草庵のおいにあたる。この盛之助はわずか25歳で亡くなったが、その生涯は草庵を支え続けた一生であったと言えるだろう。

草庵が自分のふるさと宿南（現養父市八鹿町）に、青谿書院を建てて移ったのは弘化4（1847）年6月8日であるが、その頃の日記に盛之助の名前がたびたび出てくる。

「夕方、盛之助来る。長兄も来る。しばらく対話。夜更け就寝」（同6月11日）

「夕方、村人が数名来る。退去後、盛之助と芳太郎と夜中まで対話」（同13日）

「夜、盛之助とずっと対話」（同17日）「夜、片山（実家）に行き浴湯。囲炉裏のそばで盛之助と話し合う。実に楽しい」（同11月29日）「夜は盛之助に王氏の文章数編とその他読ませる」（嘉永元〈1848〉年9月13日）盛之助は、草庵がまだ京都の松尾山で一人で修行しているときから、草庵に仕えるようになった。草庵の兄、盛之助の父親の頼みであった。草庵が京都に出てから6年ほど経った天保9（1838）年のことである。草庵は25歳、盛之助は12歳の少年であった。草庵のもとに来た盛之助は草庵を尊敬し、学問にも熱心に取り組んだ。また、日常生活でも谷に水くみにいったり、山で薪を作ったりするなど炊事や雑用を引き受け、草庵を助けた。

盛之助は、草庵が山中から京都市中に出て塾を開いたときも、八鹿に帰り立誠舎を開いたときも、青谿書院に移ったときも、草庵とともにいて、草庵を支えたのだった。学問の上でも草庵が最も期待する門人に成長した。

しかし後年、盛之助は病気のため25歳の若さで亡くなった。その葬儀の祭文で草庵は「私のために青谿書院を建て、私のために妻を選んでくれるなど、私のすべてを助けてくれた」と感謝の気持ちを述べている。

池田草庵先生に学ぶ会